

# 沿岸域における生態系サービスの統合的評価手法（IMCES）を用いた沿岸域の環境価値の“見える化”

～Integrated evaluation Method for Coastal Ecosystem Service～

## インフラとしての自然環境の価値を“見える化”する

- 沿岸域の自然環境に価値があることは、多くの人々が認める場所だと思います。しかしながら、その価値を捉えることは、簡単なことではありません。
- なぜなら、自然の持つ価値のほとんどが、値段をつけることができず、人々の価値観に強く根差しているからです。このため、多くの国や地域で、沿岸域の環境が失われてきました。
- 我が国では、失われた沿岸域環境を再生するため、干潟や藻場の造成が行われてきましたが、その取り組みはいまだ不十分であるのが現状です。
- IMCESは、このような現状を打開すべく開発された、新しい環境価値の評価手法であり、沿岸域の環境価値を“見える化”するとともに、その値段（貨幣価値）を示すことができます。

## 沿岸域における生態系サービスの統合的評価手法（IMCES）の特徴

- IMCESでは、10の異なる環境の価値を統合的に評価することが可能です。
- 個別の環境価値の得点と、得点を貨幣換算して得られる経済価値という2種類のアウトプットを持つのが特徴です。

- 多様な環境の価値を統合的に評価可能
- 得点評価と経済評価の2段階評価
- 各海域が持つ環境の特徴を分かりやすく“見える化”
- アンケート調査に基づき得点を貨幣換算することで経済価値を算出
- 多様な指標群を解析することで、場の価値を高めるための対策を抽出・提案

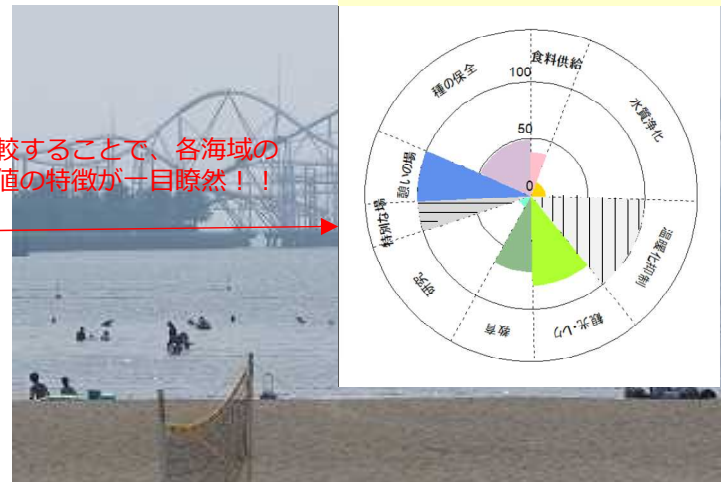
アンケートに基づき、  
得点を貨幣換算

18億円/ヘクタール



自然干潟（小櫃川河口干潟）

16億円/ヘクタール



造成干潟（海の公園）

## IMCESの使い方

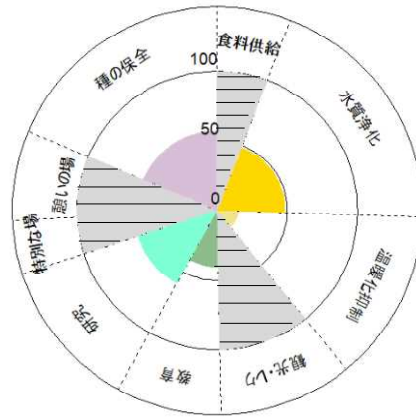
- ・ 海域環境創造事業や、干潟・藻場造成事業の効果の評価と対策検討
- ・ 沿岸域環境に関わるステークホルダー間の価値認識共有と合意形成の促進
- ・ NPO等による沿岸域環境の保全・再生の取り組みの“見える化”によるPR
- ・ 企業の沿岸域環境に関するCSR活動の成果の“見える化”と統合報告書への利用



事業効果の評価と対策検討



NPOの取組のPR



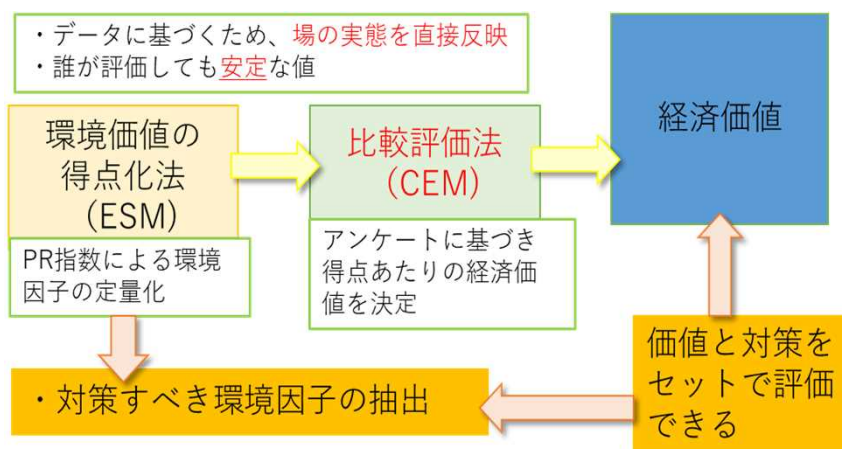
ステークホルダーの合意形成



CSRの見える化

## IMCESの評価手法について

- ・ IMCESの評価は、得点評価を行うための「ESM」と、得点の貨幣換算を行うための「CEM」という2段階の評価プロセスから行われます。
- ・ これらの一連の評価プロセスの詳細は、書籍としてとりまとめ、広く一般に公開しています。
- ・ IMCESを使った事業評価やCSRの“見える化”に関するお問い合わせや相談は、担当までご連絡をください。皆様のニーズに沿った評価を提案させていただきます。



IMCESの評価体系



## 沿岸域における環境価値の定量化ハンドブック

岡田 知也  
三戸 勇吾 編著  
桑江 朝比呂

生物研究社

ISBN978-4-909119-16-2

復建調査設計株式会社 URL <http://www.fukken.co.jp>

東京支社 〒101-0032 東京都千代田区岩本町三丁目8-15

TEL (050)9002-1764

FAX (03)5835-2632

お問合せ先

第一技術部環境課 三戸 勇吾

e-mail: [y-mito@fukken.co.jp](mailto:y-mito@fukken.co.jp)